

第9回 精神保健福祉士 専門科目

国家試験 問題（やまだ塾）

（2007年2月17日ホームページ掲載）

【精神医学】

問題 1 認知症に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 知的能力の広範な障害が特徴であり、発達の障害に基づく知的障害も認知症に含まれる。
- B. 原因として、アルツハイマー病と脳血管障害が多いが、パーキンソン病、プリオン病（クロイツフェルト・ヤコブ病）なども認知症の原因疾患となる。
- C. 記憶障害、見当識障害、失語・失行・失認などの大脳巣症状、理解力・判断力の障害が中核症状で、多くは進行性に経過する。
- D. 随伴する症状として、徘徊、拒絶、拒食、暴力行為などの行動異常があるが、せん妄はまれである。

（組み合わせ）

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 2 疾患で見られる症状の次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. パニック障害………予期不安
- B. 社会恐怖………被害妄想
- C. 適応障害………作為（させられ）体験
- D. 解離性障害………健忘

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	×	○	○

問題 3 次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. コカイン、大麻は身体依存を起こしにくいものの、精神依存をきたす。
- B. 覚せい剤使用中止の数年後でも突然、幻覚や妄想が出現する「フラッシュバック」が認められる。
- C. 振戦せん妄はアルコールの離脱症状としておこり、意識障害、小動物幻視などの幻覚、そして振戦が特徴である。
- D. アルコール依存症の治療では、肝機能検査を指標に断酒よりも節酒を勧めるのが重要である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	○

問題 4 次の事例で認める精神症状として、誤っているものを一つ選びなさい。

(事例)

21歳の大学生。2年前から大学に行かず、1年前から何もせず自室に閉じこもるようになった。「周囲がなんとなく変わった感じがして不気味」、「自宅の前を通った白いワイシャツの男に会った時に自分のことを狙っていると確信した」、「誰もいないのに自分の悪口を言う男女の声が聞こえる」という。

- 1 無為自閉
- 2 妄想気分
- 3 被影響体験

- 4 対話性幻聴
- 5 妄想知覚

問題5 次の事例について、この時点での判断として正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

(事例)

50歳の男性。うつ病のため精神科に通院中であつたが、一昨日、病院からもらっていた向精神薬を大量に服薬して自殺を図り、意識のない状態を家族に発見され、緊急入院となった。入院約6時間後に意識を回復し、その2日後には、特に身体面の治療を必要としない状態になった。精神科医の面接時、軽い憂うつ感を認め、自殺企図の理由については「自分が経営する会社が倒産しそうで苦しい。しかし今回死ねなかつたことで、頑張って仕事を続ける決心がついた。もうこんなこと(自殺企図)はしません」と述べた。

- A. 年齢から考えて幻覚や妄想の有無を考慮する必要はない。
- B. 自殺企図の後なので、患者の承諾なしに社員から話を聞いてよい。
- C. 抗うつ薬の服用は、妥当である。
- D. 再び自殺を図る可能性がある。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題6 次の事例から見て適切でないものを一つ選びなさい。

(事例)

10歳の女子。不登校を主訴として母親と来院した。1年前から、朝起きると吐き気、頭痛を訴え、時々学校を休むようになり、最近1か月は全く登校していない。午前9時頃には症状は消失する。食欲はあり、睡眠もとれている。休日には兄弟と元気そうに遊んでいる。消化器と血液の精査をしたが異常は見つからなかつた。

- 1 心理検査

- 2 頭部の画像検査
- 3 家族と担任教員との面談
- 4 遊戯療法
- 5 登校を促す繰り返しの説得

問題 7 次の事例について、最も可能性が高い診断名として適切なものを一つ選びなさい。

(事例)

24歳の女性。リストカットを繰り返していることを案じた母親に連れられて来院した。「中学校の演劇部内でいじめられて以来、人間不信になった」、「高校のとき親友に裏切られて、しばらく学校へ行けなかった」などという。大学に入学した後、異性と交際し、順調なときは明朗活発に見えるが、数か月で別れては落ち込むことを繰り返した。大学中退後、いらいらして物を壊したり、「死んでやる」と包丁を持ち出すこともある。時々母親に対して「育て方が冷たかったせいだ」と恨み言をいい、泣きわめく。診察時は落ち着いて話し、知的水準は正常範囲との印象を与える。

- 1 うつ病
- 2 外傷後ストレス障害
- 3 解離性障害
- 4 境界性人格障害
- 5 行為障害

問題 8 多動性障害に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 怪我や事故に遭いやすいことがある。
- B. 中枢神経刺激薬が有効なことも少なくない。
- C. 学童期を過ぎると多動が改善することが多い。
- D. 成人するとしばしば躁病になる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |

5 × × ○ ○

問題 9 次の疾患への対応として適切でないものを一つ選びなさい。

1. 神経性無食欲症………内科的諸検査
2. 残遺型統合失調症………抗精神病薬の服用
3. 強迫性障害………行動療法
4. 血管性認知症………昇圧薬の服用
5. パニック障害………選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)の服用

問題 10 次の行動等について、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の規定に基づき厚生労働大臣が定める行動の制限(厚生省告示)において、どのような場合でも行うことができない行動制限として正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 病院内売店に買い物に行くことの制限
- B. 家族との面会の制限
- C. 信書発信の制限
- D. 患者の代理人である弁護士との電話の制限

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

【精神保健学】

問題 11 自殺に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 警察庁の統計によると、平成17年中の自殺者数は、3万人を超えている。
- B. 自殺対策基本法には、国の責務は規定されているが、地方公共団体、事業主、国民の責務は規定されていない。

- C. 自殺対策基本法には、内閣府に自殺総合対策会議を設置することが規定されている。
- D. 警察庁の統計によると、自殺の原因・動機は、ほとんどが「健康問題」であって、「経済・生活問題」はごくわずかである。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 12 次のうち、障害者自立支援法施行後も、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に規定されているものに○、規定されていないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神障害者保健福祉手帳
- B. 精神障害者社会適応訓練事業
- C. 精神障害者通院医療公費負担制度
- D. 精神保健福祉センター

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	○

問題 13 精神病床及び精神科在院患者の現状に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 精神病床数は、全国で人口1万人当たり40床を超えている。
2. 人口1万人当たりの精神病床数を地域別に見ると九州や四国で高い傾向にある。

3. 65歳以上の在院患者数は、近年増加している。
4. 医療保護入院による患者数は、在院患者数のおよそ3分の1である。
5. 在院中の患者の40%以上は、5年以上継続して入院している。

問題 14 次の組み合わせのうち、関係の深いものに○、乏しいものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. ニート(NEET)……………若者自立塾
- B. 犯罪被害者……………外傷後ストレス障害(PTSD)
- C. 発達障害者支援法……………アスペルガー症候群
- D. ひきこもり……………無動無言症

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 15 次のうち、「精神保健医療福祉の改革ビジョン」(厚生労働省精神保健福祉対策本部, 平成16年9月)の達成目標に示されているものに○, 示されていないものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神疾患についての認知度
- B. 開放率
- C. 平均残存率
- D. 退院率

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |

- 3 × ○ ○ ×
 4 × ○ × ○
 5 × × ○ ○

問題 16 精神保健福祉制度に関する次の事項を古いものから年代順に並べた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 措置入院
 B. 精神保健福祉士
 C. 精神保健指定医
 D. 社会復帰調整官

(組み合わせ)

- 1 A→C→D→B
 2 A→C→B→D
 3 A→D→B→C
 4 A→B→C→D
 5 C→A→D→B

問題 17 精神保健福祉業務に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 精神保健福祉センターの業務に、保健所や市町村及び関係機関に対する技術指導及び技術援助がある。
2. 精神保健福祉センターに配置する精神保健福祉士の職員数は、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に規定されている。
3. 保健所は、精神科病院に対する指導監査に必要に応じて参画する。
4. 市町村は、精神障害者保健福祉手帳の申請の受理を行う。
5. 保健所は、精神障害者の実態、精神保健福祉にかかわる諸社会資源等の実態の把握とその情報提供を行う役割がある。

問題 18 次の記述のうち、発達障害者支援法に規定されていないものを一つ選びなさい。

1. 児童の発達障害の早期発見

2. 国民の責務
3. 発達障害者支援センター
4. 育成医療
5. 就労の支援

問題 19 「平成14年患者調査」の結果に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 受療中の精神障害者数は、人口1万人当たり150人を超えている。
2. 統合失調症で受療中の患者数は、入院と外来で大きな違いはない。
3. 統合失調症で受療中の患者数は、男女間で大きな違いはない。
4. 65歳以上の高齢者では、統合失調症と比べて気分障害(躁うつ病を含む)で受療中の患者数が約2倍となっている。
5. 気分障害(躁うつ病を含む)で受療中の患者数では、男性と比べて女性が約2倍となっている。

問題 20 アルコール関連問題に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)」では、多量に飲酒する人の減少を目標に掲げている。
2. アルコールの1日の摂取量と死亡率には相関関係はない。
3. 「アルコールリクス・アノニマス(AA)」は、日本からはじまった。
4. 未成年者へのアルコール教育は三次予防である。
5. アルコール関連問題には、交通事故等の社会的問題は含まれない。

【精神科リハビリテーション学】

問題 21 精神科リハビリテーションの基本原則に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 当事者参加の原則とは、リハビリテーションのあらゆる過程に当事者が主体的に参加できるよう配慮することで、目標や評価の共有も含まれる。
- B. 個別性の重視の原則とは、個別的ニーズに応じた方法で援助することで、従来の集団プログラムは避け、個入支援を行うことである。
- C. 疾病の管理と再発防止の視点とは、疾病を管理して再発を防止することがリハビリテーション遂行

の上で不可欠という考えである。

D. 包括的アプローチの原則とは、一人の支援者が当事者の多様なニーズに対応した包括的支援を行うことである。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	○	×	×	○
5	×	○	○	×

問題 22 リハビリテーション中の患者が「失敗したことを会社の上司に叱られて落ち込んでいるんです」と言ったときの面接技術に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 開かれた質問……「どんなことがあったのですか？」
- B. 支持……「大変ですね。ピンチを切り抜けられるように私もお手伝いします」
- C. 妥当化……「叱られて落ち込んでいるんですね」
- D. 反映……「そういうことがあったら落ち込むのはごく自然なことですね」

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	○	○	×

問題 23 社会生活技能訓練(SST)に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 望ましくない行動を減らすことよりも、肯定的・建設的な行動を増やすことを目標とする。
- B. 歯磨きや整理整頓などの日常生活技能を訓練するモジュールがある。

- C. 行動形成(シェイピング)では, 複雑な行動を実行可能な行動に細分化する。
 D. 行動の強化子は, トークンエコノミーにおける物的報酬によるもので, 社会的賞賛は含まない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	○	×	×	×
5	×	○	○	×

問題 24 診療報酬に関する次の記述のうち, 正しいものに○, 誤っているものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神科退院指導料は, 1か月を超える入院について1回に限り算定できる。
 B. 精神科退院前訪問指導料は, 退院後に通う小規模作業所への訪問は算定できない。
 C. 精神科訪問看護・指導料は, 看護師と同行しないと精神保健福祉士の訪問は算定できない。
 D. 退院後3か月以内の患者に対する精神科訪問看護・指導料は, 週5回まで算定できる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	○	×	○

問題 25 成年後見制度に関する次の記述のうち, 正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 成年後見人は, 成年被後見人に代わって, その居住の用に供する建物を売却する時は, 家庭裁判所の許可を得なければならない。
 B. 「法定」後見制度は, 「保佐」「補助」という二つの類型からなる。
 C. 判断能力の不十分な人で配偶者又は4親等内の親族がいない場合, 市町村長が必要と認めるときは, 法定後見の開始の審判の申立てができる。

D. 任意後見とは、本人が判断能力のあるうちに、前もって代理人と任意後見契約を結んでおく制度で、任意後見人は、配偶者または4親等内の親族に限られる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 26 精神障害者ケアマネジメントに関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 仲介型ケアマネジメントは、利用者と社会資源を結び付けるものである。
- B. ACT(assertive community treatment:包括的地域生活支援プログラム)では、保健・医療・福祉・就労支援のアウトリーチサービスでケアマネジメントを活用する。
- C. 担当のケアマネジャーが利用者に働き掛けることを直接介入、他の関係者に依頼して働き掛けることを間接介入という。
- D. 実施後の評価は、生活の変化、環境の変化の二つで行う。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | ○ | × |

問題 27 改正「障害者雇用促進法」に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 各企業の実雇用率の算定対象となる精神障害者は、精神障害者保健福祉手帳を所持する者である。
- B. 民間の各企業の法定雇用率が1.8%から2.1%に引き上げられた。

C. 1週間の労働時間が20時間以上30時間未満の短時間労働者である精神障害者については、各企業の実雇用率の算定に当たって0.5人と算定することになった。

D. 事業主に精神障害者の雇用が義務づけられた。

(注)改正「障害者雇用促進法」とは、平成17年に改正された「障害者の雇用の促進等に関する法律」のことである。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	×

(精神科リハビリテーション学・事例問題)

次の事例を読んで問題28から問題30までについて答えなさい。

(事例)

Kさん(37歳, 男性)。専業主婦の妻(28歳)と子1人(1歳)有り。まじめで責任感が強い。大手電気メーカーの営業部門に勤務。今年に入って同期入社の仲間内では最初に係長に昇進。その直後、取引先との交渉でのトラブルが重なり、1人で処理に追われ残業で深夜の帰宅が続いた。昇進後2か月経ったところから食欲不振、不眠に陥り、職場でも考え込むことが多くなり、仕事の能率が低下し、人と話すのが苦痛に感じられるようになった。昇進後3か月目に勤務態度を上司に叱責されたのをきっかけに、会社を休むようになった。毎晩のように夜中に目が覚めて眠れず、朝も起きられなくなり、「会社でうまくいかない。死にたい」ともらすようになった。会社も休みがちになり、約1か月後、妻に付き添われ、精神科クリニックを受診した。2か月間、定期的に通院して服薬を続けたところ睡眠は改善し、死にたい気持ちは消失した。しかし、「職場での緊張場面を考えると憂うつな気分になる。すぐに仕事に復帰する自信がない」との訴えがあるので、復職に向けてのリハビリを目的に、復職希望者を対象にした精神科デイ・ケアを利用することになった。

デイ・ケアでは、同じような体験をした仲間も見つかり、通所できる日が増えた。デイ・ケア開始1か月目に、妻から「すっかり元気になったように見える。このままでは将来が心配だから、早く復職して」と懇願されたKさんは、外来担当の精神保健福祉士Eさんに「仕事での失敗を考えるとまだ気持ちが落ち込む。自分としてはもうしばらくデイ・ケアに通いたいが、家族のこともあるし」と悩む気持ちを相談して

きた。(問題28)

その後、2か月が経過。Kさんは、週4日のデイ・ケアには休まず参加。デイ・ケアのミーティングの場で「復職しないといけないが、このままでは不安だ」とKさんが発言しているとの情報を得たE精神保健福祉士は、主治医の了解のもと、外来時Kさんと面接し、職場復帰に向けての思いを確認することにした。(問題29)

ケア会議後、会社の人事担当者との調整の結果、フルタイムの勤務ではなく、以前の営業からはずれ、事務作業を中心とした部署で、慣らし勤務をすることになった。1か月が経過したある日、「前の部下と会社内のエレベーターでばったり会って、休職中のことをいろいろ聞かれ、うまく対処することができず、だまりこんでしまい気まずい思いをした。また今度会ったらどうすればいいのか」と、外来でE精神保健福祉士に相談してきた。(問題30)

問題 28 Kさんからの相談へのE精神保健福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. Kさんに、病気の理解を促すために、妻を交えて三者面談を提案する。
- B. Kさんに、会社の産業医の判断を聞き指示に従うことを勧める。
- C. Kさんの気持ちを傾聴し、今後についてのプランを一緒に考える。
- D. Kさんの上司に連絡を入れ、復職の相談に乗ってもらえるよう依頼する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 29 Kさんとの面接の結果、復職に向けてのE精神保健福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 慣らし勤務の実施に当たって、妻に上司と話し合うように勧めた。
- B. Kさんの同意のもと、職場側の受け入れ状況についての情報収集や産業医と連絡調整を行った。
- C. ケア会議に、Kさんの要請に基づいてKさんの妻に出席するよう依頼した。
- D. これまでのデイ・ケアでの状況についてデイ・ケア担当の作業療法士に説明を要請した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	×
4	×	○	○	○
5	×	○	○	×

問題 30 Kさんから職場での出来ごとを聞いたE精神保健福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 不安コントロールのための自律訓練を提案した。
- B. 対応の仕方についてKさんと個別でのSSTを実施した。
- C. 状況把握と今後の対策をKさんと考えるための面接を行った。
- D. 不安を消すために行動療法でのフラッディングを勧めた。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	×	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

【精神保健福祉論】

問題 31 次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 国連の国際人権規約は、その1条で「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」と定めている。
- B. アメリカにおいては、公民権運動などを背景に1960年代に入り自立生活センターが設立され、19

73年, 障害者の差別禁止規定をもつリハビリテーション法改正法が成立した。

C. 国連の「障害者に関する世界行動計画」は, 障害の予防やリハビリテーション並びに社会生活と開発への障害者の「完全参加」及び「平等」という目標実現のための効果的な施策を推進することを目的とした。

D. 国連の「精神病者の保護および精神保健ケア改善のための諸原則」では, 「すべての精神病者は, 可能な限り地域において生活し, 働く権利をもつ」と定めている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	○	×	○

問題 32 障害及び障害者に関する次の記述のうち, 正しいものに○, 誤っているものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

A. 国連の障害者の権利宣言では, 障害者を「身体的または精神的能力の不全のために, 通常の個人生活に必要なことを確保することが自分自身では完全にできない人」としている。

B. 障害者基本法では, 障害者を「身体障害, 知的障害または精神障害があるため, 継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける者」としている。

C. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律では, 精神障害者を「統合失調症, 精神作用物質による急性中毒又はその依存症, 知的障害, 精神病質その他の精神疾患を有する者」としている。

D. 障害者自立支援法では, 精神障害者を「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第5条に規定する20歳以上の精神障害者」としている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	○

問題 33 我が国の精神保健福祉の歴史に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神病患者監護法(明治33年)で認められた私宅監置は、第二次世界大戦後、新たな精神衛生法の制定(昭和25年)により廃止された。
- B. 精神衛生法の一部改正(昭和40年)において、精神衛生センター及び保健所の業務規定や通院医療公費負担の導入が行われた。
- C. 精神保健法(昭和62年)において、任意入院等、入院形態の改正が行われるとともに、精神障害者社会復帰促進センターが法定化された。
- D. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(平成7年)において、国民は、精神障害者等の自立と社会経済活動への参加をしようとする努力に対し協力するように努めなければならないとした。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 34 地方精神保健福祉審議会、精神医療審査会に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 地方精神保健福祉審議会委員は15人以内で構成され、その任命は知事が行い、任期は2年と精神保健福祉法で規定している。
- B. 精神医療審査会は、精神保健福祉法制定時(平成7年)に、精神障害者に対する適正な医療及び保護を目的として創設されたものであり、審査の案件は合議体で取り扱う。
- C. 精神医療審査会の委員の任命は知事が行い、精神保健福祉士を任命することができる。
- D. 地方精神保健福祉審議会は、精神保健福祉に関する事項に対して、知事からの諮問に答えるとともに知事に対して意見を具申することができる。

(注)「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 35 精神科病院に入院中の精神障害者の人権に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

1. 家族が出した手紙が治療効果を妨げる可能性がある場合、患者がそれを受け取ることを制限することができる。
2. 通信と面会は基本的に自由であることを、入院時に患者や家族には文書で伝えなければならない。
3. 患者から処遇に関する不満を聞いた友人は、都道府県知事に対して当該患者の処遇の改善を請求することができる。
4. 患者は原則としてだれの立ち会いもなく面会できるが、患者や面会者が望めば、病院の職員が立ち会うことができる。
5. 市区町村長は、精神科病院の管理者に対して、必要があると認めるときは、患者の症状や処遇に関して報告を求め、診療録等の書類の提出を命じることができる。

問題 36 訪問指導又は訪問看護に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神保健福祉士は、健康保険法に基づいて精神科を標榜する医療機関が行う精神科訪問看護・指導に単独で従事し、診療報酬に算定できる。
- B. 精神保健福祉士は、老人保健法第17条に基づいて指定訪問事業者（訪問看護ステーション）に配置すべき職員として訪問看護・指導に単独で従事し、診療報酬に算定できる。
- C. 精神保健福祉士が医師の指示を受けずにグループホームに入居する精神障害者を訪問看護・指導を行う場合にも、診療報酬に算定できる。
- D. 精神保健福祉士は、利用者の心身機能の維持回復を図り、日常生活が自立できるように、単独で介護保険における指定訪問リハビリテーションを提供できる。

（組み合わせ）

- A B C D

- 1 ○ ○ ○ ×
 2 ○ × ○ ×
 3 ○ × × ×
 4 × ○ ○ ○
 5 × ○ × ○

問題 37 日本精神保健福祉士協会の倫理綱領の前文の空欄A, B, Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

「われわれ精神保健福祉士は、個人として尊厳を尊び、(A)の関係を捉える視点を持ち(B)の実現をめざし、社会福祉学を基盤とする精神保健福祉士の価値・理論・実践をもって精神保健福祉の向上に努めるとともに、クライアントの(C)と福祉のための専門的・社会的活動を行う専門職としての資質の向上に努め、誠実に倫理綱領に基づく責務を担う。」

- | | A | B | C |
|---|---------|--------|------------|
| 1 | 障害と環境…… | 共生社会…… | 社会的復権・地位向上 |
| 2 | 人と環境……… | 共生社会…… | 社会的復権・権利擁護 |
| 3 | 人と環境……… | 共生社会…… | 地位向上・権利擁護 |
| 4 | 人と環境……… | 福祉社会…… | 地位向上・社会的復権 |
| 5 | 障害と環境…… | 福祉社会…… | 権利擁護・社会的復権 |

問題 38 精神保健福祉士に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 精神保健福祉士の資格は名称独占資格であり、精神保健福祉士でない者が名称を使用した場合には30万円以下の罰金に処される。
2. 精神保健福祉士の信用を失墜させるような行為を行った場合には、登録を取り消されることがある。
3. 精神保健福祉士は、精神障害者に主治医がある場合にはその指導を受けなければならない。
4. 精神科救急情報センターには、精神保健福祉士等の精神保健福祉施策に精通した職員が配置されなければならない。
5. 精神保健福祉士には、業務上で知り得た精神障害者の秘密に関しては守秘義務があるが、精神保健福祉士でなくなった場合はこの限りではない。

問題 39 保護観察所の社会復帰調整官の業務に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 精神障害者の医療に関する学識経験に基づき、処遇事件ごとの合議体で意見を述べなければならない。
- B. 地方裁判所が対象者の処遇に関する審判を行う際に、処遇の要否について意見を述べる。
- C. 対象者の通院治療の状況や生活状況を見守り、継続的な医療が受けられるよう精神保健観察を行う。
- D. 指定入院医療機関に入院中の対象者や家族の相談に応じ、退院後の生活環境の調整を行う。

(組み合わせ)

- 1 A C
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 40 障害者自立支援法に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 都道府県は、市町村と緊密に連携を図りつつ必要な障害福祉サービスの給付及び地域生活支援事業を総合的かつ計画的に行うものとした。
- B. 身体障害、知的障害、精神障害の3障害の福祉サービスを統合し、それぞれ18歳未満の者については対象外とした。
- C. 国民は、障害の有無にかかわらず障害者等がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営めるような地域社会の実現に協力するものとした。
- D. 市町村は、国の基本指針に即し、障害者福祉サービス、相談支援及び地域生活支援事業の提供体制の確保に関する市町村障害福祉計画を定めるものとした。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | × | × |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | × | ○ | ○ |

5 × × × ○

問題 41 次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 障害者自立支援法の制定により、通院医療公費負担制度は自立支援医療に移行した。
- B. 発達障害者支援法の対象には、18歳未満のものは含まれない。
- C. 障害者雇用促進法の改正(平成17年)において、国、地方公共団体は雇用の促進とその職業の安定を図るための必要な施策を、障害者の福祉に関する施策との連携の中で総合的に推進するものとした。
- D. 心神喪失者等医療観察法において、その処遇に携わる者は法の目的を踏まえ、対象者が円滑な社会復帰ができるように努めなければならないとしている。

(注)1 「障害者雇用促進法」とは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」のことである。

2 「心神喪失者等医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 42 精神障害者保健福祉手帳に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 生活保護を受けている者で精神障害者保健福祉手帳1級、2級を所持している場合、要件を満たせば障害者加算が算定される。
- B. 精神障害者保健福祉手帳を所持している場合には、生活福祉資金貸付制度を利用することができる。
- C. 精神障害者保健福祉手帳1級、2級を所持している場合は、自動車税の減免を受けることができる。

D. 厚生労働大臣は、その必要があるときは、精神障害者保健福祉手帳の返還を命じることができる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 43 保健所及び市町村における精神保健福祉業務の変遷に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 地域保健法によって、都道府県は保健所を、市町村は市町村保健センターを設置しなければならないと規定された。
- B. 昭和40年の精神衛生法改正により、保健所に地域精神衛生業務が位置づけられた。
- C. 「精神保健福祉法」によって、保健所や市町村の精神保健福祉相談員として精神保健福祉士を配置しなければならないと規定された。
- D. 平成11年の「精神保健福祉法」の改正により、平成14年から市町村が精神障害者福祉にかかる窓口業務を行うことになった。

(注)「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 44 障害者の雇用・就労に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 障害者雇用率制度は、法定雇用率が未達成であるすべての企業から納付金を徴収して、雇用率達成企業に調整金・報奨金あるいは助成金を支給する制度である。

- B. 障害者自立支援法には、雇用契約に基づく一般就労への移行に向けた支援のほかに、雇用契約のない就労の継続に向けた支援をする事業などがある。
- C. 職場適応援助者(ジョブコーチ)は、地域障害者職業センターに配置される場合や社会福祉法人等に配置される場合がある。
- D. 社会福祉法人やNPO法人等が運営する障害者就業・生活支援センターは、関係機関と連携する拠点として、就業面と生活面における一体的な相談支援を行う。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	○	×	○

(精神保健福祉論・事例問題1)

次の事例を読んで、問題45から問題47までについて答えなさい。

(事例)

Kさん(45歳, 男性)は25歳のときに発病し、統合失調症と診断された。5回目となる今回の入院は、3年前精神的不安定から職場で同僚に暴力を振るったことによるものである。職場からの連絡で警察官に保護され、その通報に基づき、診察を受け、措置入院となった。その後Kさんの経過は良く、措置入院の解除は早い時期になされた。(問題45)

入院中に両親が亡くなったことや社会生活に対し自信をなくしていること等で入院生活が長引き、会社も退職となった。

Kさんの退院後の不安は、一人暮らしでの食事、健康管理、昼間の過ごし方をどうするか等についての問題であった。そのため、退院に向けて病院のA精神保健福祉士や保健所の相談員などと相談を重ね、精神障害者退院促進支援事業を利用して十分な準備のもとに、自立支援員の援助を受けながら3か月前の平成17年12月初めに退院となった。(問題46)

Kさんは、これまで退院後にに向けた準備をしないまま働き始めてきていたことや職場には病気であることが分からないようにしてきたことが、精神的な不調を招き、入退院を繰り返してきたのではないかと考えた。そこで、これからは、病気や通院のことについて理解のある職場で働き、再発や再入院を防ぎながら安定した生活を築いていきたいと考えるようになっていく。(問題47)

問題 45 Kさんの入院に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. Kさんの措置決定の診察は、精神科病院長に対する警察官の通報に基づき行われた。
- B. Kさんの措置入院は、精神障害のため同僚に暴力を振ったことにより他害の恐れがあると判定されたことによるものである。
- C. Kさんに対する措置入院の判定は、知事の指定する精神保健指定医2名以上の診察によって行われた。
- D. Kさんの経過は良く、措置症状が見られなくなったので主治医の判断で措置解除をした。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 46 Kさんが利用した精神障害者退院促進支援事業に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1. 本事業は、Kさんのように症状が安定しており、入院年数3年以上の入院患者が対象であり、退院訓練等を行い、その社会的自立を促進するための事業である。
- 2. 自立支援員は、精神障害者の福祉に理解を有する者であって、精神保健福祉士又はこれと同等程度の知識を有する者で、都道府県知事及び指定都市市長がその委嘱を行う。
- 3. 支援の方法等について協議し、円滑な支援を実施していくため、自立促進支援協議会を設置することとされている。
- 4. A精神保健福祉士は、主治医と相談し、Kさんの希望を把握した上で申込書を自立促進支援会議に提出した。
- 5. 退院訓練とは自立支援計画に基づき、日常生活を営むのに必要な活動等の訓練をいい、原則として6か月以内とし、必要に応じて更新することができるとしている。

問題 47 Kさんの就労を進めていくためのサービスに関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 雇用した事業主は、特定就職困難者雇用開発助成金の申請を事業所所在地の障害者雇用促進協会に行うことができる。
- B. 公共職業安定所での職業紹介や職業指導、また、就職後における職業安定を図るための必要な助言や指導を受けることができる。
- C. 地域障害者職業センターで、職業能力の評価や基本的な労働習慣を身につけるための職業準備訓練を受けることができる。
- D. 障害者就業・生活支援センターで、職場への適応訓練を受けることができる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

(精神保健福祉論・事例問題2)

次の事例を読んで、問題48から問題50までについて答えなさい。

(事例)

Mさん(60歳)は専業主婦で子どもがなく、趣味の書道以外の人付き合いをほとんどせずに暮らしてきた。数年前から物忘れが目立つようになったが、夫(58歳)は老化現象と考えていた。しかし6か月ほど前からMさんは同じ食事メニューが続いたり、亡くなった母親が訪ねてきたと話したり、深夜、実家に帰りたいと言うようになり、不安になった夫が受診を勧めたが拒んだ。しかし、1か月ほど前Mさんは、買い物帰りに迷子になり、通りかかった隣の主婦に連れられて戻ってきた。またその夜から「誰かが泥棒に入る」と訴え、夜中に外出しようとして夫と口論となって大声で叫ぶなどの行為が続いた。結局近所からの苦情もあり、夫は自分の受診の付き添いと偽って精神科に受診させた。Mさんは認知症と診断され頑なに入院を拒んだが、夫が翌日から出張するため、自分も安心だから入院して欲しいと説得すると、「あなたの迷惑になりたくない」と入院に同意した。(問題48)

Mさんは開放病棟に入院し、夫が帰った後は落ち着かず、自室やトイレが分からない、食事を摂ったことを忘れて何度も「看護師が配膳しない」と訴える、などが続き、翌日の就寝時に「夫が待っているのでうちに帰る」と荷物をまとめ出て行こうとした。(問題49)

診察の結果、入院形態を切り替えて入院を継続することになり、Mさんは閉鎖病棟に変わった。

入院1か月後、Mさんは日中落ち着いて、週2回書道の作業療法と毎日の夫の面会を楽しみ、夜間覚醒がなくなった。しかし、夫と別れるときに「一緒に帰る」と泣き、就寝するまでは落ち着かず、身の回

りの品を盗まれたなどと訴えていた。夫は、経済的問題はないことを確認して退職する覚悟を決め、精神保健福祉士にMさんを早く退院させて今後も家庭で夫婦一緒に過ごしたいと相談した。(問題50)

問題 48 Mさんの入院形態と入院の可否を判断する医師及び同意をする人の組み合わせのうち適切なものを一つ選びなさい。

＜形態＞	＜判断者＞	＜同意者＞
1. 医療保護入院……	精神保健指定医1名……	夫
2. 任意入院……	医師……	Mさん
3. 任意入院……	特定医師……	夫
4. 措置入院……	精神保健指定医2名以上……	都道府県知事
5. 応急入院……	医師……	Mさん

問題 49 「うちに帰る」というMさんへの病院職員の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 今は、公共交通手段がないので、翌朝に退院できるとMさんに伝える。
- B. 夜間は事務手続きができないので、退院は許可できないとMさんに伝える。
- C. Mさんの訴えを退院要求と判断し、安全に配慮してタクシーで退院させる。
- D. 夫が出張中であることを伝え、精神保健指定医の診察を受けられるように手配する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	×	×
3	×	○	○	×
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問題 50 Mさんの退院に向けて必要な援助に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 65歳未満なので介護保険による在宅サービスは受けられないが、医療保険による精神科訪問看

護を利用できると説明する。

- B. Mさんが住み慣れた地域で生活できるように、グループホームの利用を勧める。
- C. 夫の休息にもなるので、Mさんのデイ・サービスの利用を検討する。
- D. 入院が1か月以上になったので、退院後の生活環境や夫の介護力を確認して退院前訪問看護指導を治療チームで検討する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

【精神保健福祉援助技術】

問題 51 エンパワメント・アプローチに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. クライアント自身が本来持っている力を取り戻すこと、そのための社会的な障壁を取り除くことの両面に焦点が当てられる。
- B. 国際ソーシャルワーカー連盟による「ソーシャルワークの定義」(2000年)にも考え方が取り入れられている。
- C. 心理社会的アプローチと同義語である。
- D. 援助過程は、インテークに始まり、問題の査定、ケアプランの提示、介入の順に進められる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 52 集団援助を行う精神保健福祉士に対して、スーパーバイザーが行ったスーパービジョンに関

する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神科診療所において統合失調症の家族に対する心理教育の開催を準備している精神保健福祉士と、CAGE(ケージ)法について話し合った。
- B. 福祉ホームにおいて入所者同士の対立が続き、その対立がメンバー全体に波及したため、職員研修でロールプレイを行い、集団力動を体験させた。
- C. 保健所において利用者からセルフヘルプグループ(SHG)を立ち上げたいと相談を受けた精神保健福祉士と、SHGの形成過程と支援の関係について話し合った。
- D. 長期利用者が多数通所し続けているデイ・ケアにおいて、デイ・ケアから地域での自立した生活に移行できない原因を明らかにするため、プログラムのあり方と援助方法を検討させた。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | × | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 53 精神保健福祉援助活動の基本に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 利用者が持つ生活の心配ごとを理解する。
- B. 精神症状が再燃した場合には、家族の同意により入院させる。
- C. サービスを利用することで、自らの生活をコントロールする力をつける。
- D. 面接場面では、ダブルバインドを用いる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 54 障害福祉計画の策定に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 行政の精神保健福祉士が企画・立案・実施・評価する障害福祉計画を採用する。
- B. 精神障害者や住民及び専門職をメンバーとした計画策定の委員会を立ち上げる。
- C. モニタリングを活用して、循環的に計画を策定していく。
- D. 地域住民の個人情報調査で明らかにし、その情報を開示して参画を促しながら計画を策定していく。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 55 精神障害者の就労支援に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 職場適応面において、精神的なタフさに課題があることもあり、事業主に配慮が必要なことを助言する。
- B. 疲れやすい、ペース配分が苦手という障害への配慮から、短時間労働も可能となるよう事業主に助言する。
- C. 公共職業安定所の紹介による精神障害者の就職件数(平成13年度～17年度)が伸びており、積極的に同所障害者窓口を活用する。
- D. ジョブコーチは、利用者のワークパーソナリティに焦点を当てず、ティーチ(TEACCH)プログラムを活用する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | × | × |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |

5 × × × ○

問題 56 次の事例を読んで、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

(事例)

Fさん(女性, 35歳)は統合失調症で20歳の時に初めて1年間入院し、退院後服薬中断で2~3か月間の入院を3回経験している。今回5回目の入院後1年間経過している。病状も安定し、主治医から翌月に退院となる話が出て、退院後の生活に向けてFさんから担当のG精神保健福祉士に相談があった。Fさんは生来性の心臓疾患をもっており、身体障害者手帳4級を所持している。Fさんは「もう一度人生をやり直したい。再度勉強して学校に入り、美容師になりたい。しかし、父親は賛成してくれているが、母親は反対しているんです。どうしたらよいかしら」と訴えた。そこでG精神保健福祉士は退院前援助を開始した。

- A. 病院内に、働くことを希望する患者を対象とした「就労チャレンジグループ」の立ち上げを企画し、院内会議に提案する。
- B. 病棟で医師を含めた多職種でのカンファレンスを開き、学校に行くべきかどうかを決定する。
- C. Fさんとともに知り合いの美容店に外出し、店長から、仕事内容、必要な資格、収入、この仕事の将来性などを教えてもらう。
- D. Fさんとともに家庭に退院前訪問し、両親の意向を聞く。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | ○ | × | × | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 57 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神保健福祉士がコンサルテーションを行う場合は、スーパービジョン同様、クライアントに対して責任を負う。

- B. 精神保健福祉士同士が行うピア・スーパービジョンには、当事者を参加させる。
 C. カウンターレジスタンス(感情的な逆抵抗)を起こしている精神保健福祉士に、精神科医がコンサルテーションを行う。
 D. 精神保健福祉士によるコンサルテーションは、地域の企業や学校でも活用される。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	○

問題 58 精神障害者の地域生活支援の在り方に関する次の文章の空欄A, B, Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

地域性や(A)の高い事例、危機介入的な事例等についても効率的に調整機能が発揮され、自立に必要な就労、教育面も含めた障害者の地域生活を包括的に支援する重層的な相談支援体制を制度上確立することが必要である。

個々の具体的な相談支援については、障害者の主体的な自立に向けた取り組みを支援し、障害者を(B)していくという観点から、(C)等により障害者の状態や支援の必要性に応じて、各社会資源を効果的に活用したサービスが総合的に提供されることが必要である。(厚生労働省「精神障害者の地域生活支援の在り方に関する検討会 最終まとめ」平成16年8月)

	A	B	C
1	困難性	サポート	障害者自立支援法
2	専門性	エンパワー	ケアマネジメント
3	緊急性	エンパワー	ケアマネジメント
4	専門性	サポート	退院促進利用支援事業
5	困難性	エンパワー	障害者自立支援法

問題 59 精神保健福祉士が用いるグループワークに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神科デイ・ケアに参加するメンバーの情報を収集し、波長合わせをする。
- B. 福祉ホームのミーティングにおいて、各メンバーが発言する機会を多くし、ニーズや気持ちの表現を促す。
- C. 精神科病棟単位のグループで、メンバー同士の関係を深めるために、メンバーの座る席を固定する。
- D. 地域活動支援センターの外出活動グループで、仲間との自主的な外出活動が多くなってきたので、プログラムの終結をメンバーに提案する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 60 チームアプローチと精神保健福祉士の役割に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 主治医がいない場合であっても、医師その他の医療関係者との連携を保たなくてはならない。
- B. チームアプローチで重要な点は、個々の専門性を排し、共通の目的と理念で効果的な援助を行うことである。
- C. チームで決定したことについては全員が責任を持ち、個々の援助についての相互批判は避ける。
- D. 地域における精神保健福祉士は、サービス利用者を生活者としてとらえる視点から、それを具体化して他のチームスタッフに提示する役割を持つ。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 C D

問題 61 精神保健福祉援助における自己決定に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でな

いものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神保健福祉士は、利用者が自己決定するために社会資源の情報を提供する。
- B. 利用者の支援にかかわる原則であり、実践的、倫理的な基盤である。
- C. 精神保健福祉士の介入を前提に利用者を選択を求めるものである。
- D. 自己決定には、自己責任が伴うものであり、責任能力のあることが条件となる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 62 精神障害者のリカバリーを促す精神保健福祉士のかかわりに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 病理としてではなく、一個人として見る。
- B. 治療内容や、それに伴うリスクと有益さを十分に説明する。
- C. 良い特質や才能に気づき、それに焦点を当てる。
- D. 何かを決定する際に、精神障害者を信頼できるパートナーとする。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 63 セルフヘルプグループに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. セルフヘルプグループの種類には、人生における危機や変化に対処する人々のグループがある。
- B. プロシューマーとは、プロダクトとコンシューマーの合成語であり、自らの体験を消費者運動に活かした当事者のことである。
- C. 「アルコールリクス・アノニマス(AA)」には、パワーレスの認知から始まる12のステップという回復への指針がある。
- D. グループに参加し、他者を援助することによって援助者自身が利益を得るという効果を「ピアセラピーの原則」という。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 64 ストレングスモデルに基づいたケアマネジメントに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 仲介モデルと同様に、間接的援助を重視する。
- B. アセスメントでは、個人の資質、才能、経験知、障害を乗り越えてきたサバイバーとしてのプライドに着目する。
- C. クライアントの掲げる長期目標が非現実的なものであっても、ケアマネジャーは拒否せず、クライアントが心から望むものとして目標に掲げる。
- D. 社会資源の活用では、ソーシャルサポートよりもフォーマルなサービスとの結び付きを大切にする。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	×	○	○
2	○	×	×	×
3	×	○	○	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	×

問題 65 精神保健福祉士が行うグループワークに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 精神科デイ・ケアのグループワークでは、ストレス対処技能の獲得に対して支援することが重要である。
- B. SST(社会生活技能訓練)では、援助者の考えに左右されない自由なプログラムの中で、グループ体験を通じて個人が社会の中での機能を高める。
- C. 家族教室では、参加している者同士が支え合い、気持ちが楽になる場としての雰囲気作りを目指す。
- D. 断酒会の例会では、ファシリテーターとして参加者の意見を引き出す。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | ○ | × | × | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 66 次の事例を読んで、講座の受講者として最も適切な対象者を一つ選びなさい。

(事例)

H市には同法人の精神障害者小規模作業所が2つあるが、他に精神保健福祉関係施設はない。作業所の活動としてバザーや夏祭りを企画しても当事者・家族、関係者のみの参加で、他の住民の参加がほとんどなかった。これでは、地域を拠点にした活動にならないと作業所のG精神保健福祉士は考え、いずれ作業所と地域住民を繋ぐ役割としての精神保健福祉ボランティアの育成を求めた。G精神保健福祉士は、保健所、H市障害福祉課、H市社会福祉協議会の協力を得て、ボランティア講座を開催することを提案し、企画運営の責任者となり、講座の企画書を作成し、この地域におけるボランティア講座の受講を呼びかけた。

- 1 当事者や家族
- 2 講座終了後、作業所利用者への個別の支援ができる人
- 3 講座終了後、様々な作業所活動への協力ができる人
- 4 疾病や障害についての専門的知識を身に付けたい人
- 5 地域の民生委員や町内会の役員

問題 67 障害福祉計画の評価方法に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. インシデント・プロセス法
2. BSC(バランス・スコアカード)
3. プロセス・ゴール
4. タスク・ゴール
5. リレーションシップ・ゴール

問題 68 精神障害者家族会への支援に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 活発に活動している家族会を探して、その家族会との交流を提案する。
- B. 家族会の会員が共通認識を作れるような、家族会による家族のニーズ調査を実施することを提案する。
- C. 家族会に加わり、家族会の活性化と一緒に取り組む。
- D. 家族会会員と家族会に関係する諸機関の専門職が、家族会の活性化について話し合う会議の開催を提案する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

(精神保健福祉援助技術・事例問題1)

次の事例を読んで、問題69から問題71までについて答えなさい。

(事 例)

政令指定都市L市のP区は人口23万人で、市役所などの行政機関や繁華街、インナーシティ地区も

含む格差が大きい地域である。精神科病院が1か所、精神科診療所が6か所、地域活動支援センターが1か所、小規模作業所が2か所、保健福祉事務所に精神保健福祉相談員が3名配置されている。P区社会福祉協議会は、中学校区単位の地区社協活動に取り組んできた。また、ボランティア活動も活発であり、精神保健福祉ボランティアも、グループを作って地域活動支援センターや作業所の行事などの協力をしている。特定非営利活動(NPO)法人の活動も盛んであり、NPO法人Q会では、インナーシティ地区のホームレスの人々の支援活動を展開していた。

L市においても退院促進支援事業が開始されることになり、P区では精神保健福祉相談員のS精神保健福祉士がその事業担当となった。S精神保健福祉士は、退院促進支援事業の取組を通して、地域精神保健福祉の推進を試みた。(問題69)

Q会は、ホームレスの人々の相談支援と憩いの場の提供の活動で、アルコール依存症の人や統合失調症の人の相談や利用が多いので、精神保健福祉士を雇用して相談支援活動を強化したいとS精神保健福祉士に相談した。(問題70)

L市では、地域の課題をビジネスという手法で解決するコミュニティ・ビジネス事業支援を検討し、商工労働部が取組を開始していた。Q会は、アルコールを使用しないで料理を作るレストランを運営し、食事と憩いと交流の場として活用していく企画を立案した。Q会は、P区の地域精神保健福祉を協働で推進する企画にしたいと考えて、再びS精神保健福祉士に相談した。(問題71)

問題 69 S精神保健福祉士による地域精神保健福祉推進の取組に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 退院促進支援事業に関係する機関の精神保健福祉士に呼びかけて、退院促進支援事業運営委員会を開催する。
- B. P区の特徴を考慮し、Q会のホームレス支援と退院促進支援事業を組み合わせた、地域定住支援会議を開催する。
- C. 退院促進支援事業を契機に、P区の精神保健福祉の増進を図る連絡会を開催する。
- D. 関係機関や民間団体を訪問し、P区の退院促進支援事業についての趣旨を説明する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 70 S精神保健福祉士によるNPO法人Q会の活動支援に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 地域活動支援センターや小規模作業所との連携による課題解決を支援する。
- B. 今までの市民による活動を評価し、そのまま活動を継続させる。
- C. 国と県とL市の政策情報や民間助成金情報を提供する。
- D. 精神科医療機関との連携を強化し、ホームレスの人々で治療が必要な人を支援する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 71 S精神保健福祉士によるNPO法人Q会への再びの活動支援に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. NPO法人の活動だから、コミュニティ・ビジネスはすべきでないと助言する。
- B. コミュニティ・ビジネスを成功させるために、社会福祉協議会の協力も求めるよう伝える。
- C. 職業リハビリテーション活動として活用するために、関係機関・団体とコミュニティ・ビジネスによる就労支援のための会議の開催を助言する。
- D. コミュニティワークの実績がある精神保健福祉士を採用して、Q会の企画を活用して地域精神保健福祉推進の事業としても展開することを助言する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

(精神保健福祉援助技術・事例問題2)

次の事例を読んで、問題72から問題74までについて答えなさい。

(事例)

Rさん(50歳、女性)は、25歳で統合失調症を発症し、入退院を繰り返してきた。5年前に家族の要だった母親が死亡し、家事や一人っ子であるRさんへの対応に困り果てた父親は、通院先のT精神保健福祉士のところに何度も足を運んでいた。(問題72)

その後、Rさんに積極的にかかわり始めた父親は、E市の家族会に参加し、身体・知的障害の家族の会や関係機関と連携して、グループホームの立ち上げなどに尽力するようになった。Rさんもひきこもりがちな生活から、病院のデイ・ケアに通えるようになっていた。そんなある日、父親が久しぶりに病院に相談に来た。親亡き後への対応として、市には成年後見の利用支援に関する助成の増額をT精神保健福祉士ら専門職からも要望して欲しいというのである。E市でも最近、単身者の財産管理や生活に関する相談が増加しており、市の精神保健福祉士の連絡会が協力することになった。

その直後、Rさんの父親が心不全で急死した。持病もなく、かくしゃくとした人だったので、T精神保健福祉士はRさんの気持ちを思うといたたまれない気がした。1週間が経って、Rさんがやつれた様子で、腕に風呂敷包みを抱えて来院した。財産を自分が持っているのは不安なので、T精神保健福祉士に預かって欲しいというのである。一緒に中を確認したところ、土地の権利書や印鑑、預貯金が数千万円あった。困ったT精神保健福祉士は管理職であるH精神保健福祉士に相談した。(問題73)

その後、Rさんと関係職員で検討した結果、資産が多額で、本人の不安が大きいこと、単身生活へのサポートも必要なことから成年後見制度を利用することとなった。Rさんの申立てで利害関係のないQ精神保健福祉士が保佐人に選任され、日常生活等について担当することとなった。(問題74)

問題 72 この時点でT精神保健福祉士がRさんの父親に行う支援に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. これまでの母親の苦労を伝え、保護者の義務についての認識を促す。
- B. 病気への理解やRさんへの対応の方法を学ぶため、病院の家族教室への参加を勧める。
- C. Rさんが将来1人暮らしになることを想定し、グループホームに関する情報提供を行う。
- D. 父親からRさんの病気を近隣に伝え、理解と協力を求めることを助言する。

(組み合わせ)

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D |
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |

- 3 ○ × × ○
 4 × ○ ○ ×
 5 × × ○ ○

問題 73 H精神保健福祉士が、T精神保健福祉士に対して行う助言に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. Rさんの今後について、弁護士に助言を求めることを提案する。
 B. RさんとT精神保健福祉士の信頼関係について考慮し、医療福祉相談室で財産を管理するよう助言する。
 C. Rさんだけでなく、父親と親しかったT精神保健福祉士自身の感情も揺れ動いていることへの気づきを促す。
 D. Rさんが、相談に来てくれたことをプラスにとらえ、支援を継続するよう助言する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | × | ○ | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 74 Rさんの保佐人となったQ精神保健福祉士が行う生活支援と権利擁護に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. Rさんの資産が多額であるため、遺言作成の際には立ち会わなければならない。
 B. Rさんが一人暮らしを続けていくために、その意思を尊重しながら、生活の状況に配慮する。
 C. Rさんが手術を受ける場合には、医療機関に対して同意書を提出しなければならない。
 D. Rさんが結婚するときには、財産が侵害される可能性があるため、同意権を行使できる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |

2 ○ ○ × ×
 3 × ○ × ×
 4 × × ○ ○
 5 × × × ○

(精神保健福祉援助技術・事例問題3)

次の事例を読んで、問題75から問題77までについて答えなさい。

(事 例)

K特定非営利活動法人(以下「K法人」)は、幾つかの診療所や訪問看護ステーションと連携を図り、重い精神障害者への家族療法を行い、一定の効果があることを経験してきた。さらに効果を上げるために、K法人に勤務するH精神保健福祉士が中心となり参加メンバーは固定方式の家族教室を開催することにした。開催の予定は、3か月後の5月である。(問題75)

家族教室は、同法人の会議室で行われた。当日、H精神保健福祉士は、同僚のP精神保健福祉士と一緒に会場を設営した。各座席には、お茶とお菓子を準備し、小さな花瓶に深紅のバラを飾った。そして、二人の精神保健福祉士は、開始の1時間前には会場に待機した。定刻の午後2時には、案内を出した8家族全員が出席し、夫婦で出席した人もあり、参加メンバーは11人であった。(問題76)

初対面の人が多かったので、最初に自己紹介をしてもらうことにした。H精神保健福祉士は、バラの花を一本手に持ち、「このバラを今から回しますから、バラを手にした人は、自己紹介をした後バラに関する思い出を話してください。終わったらお隣の人に心を込めて渡して下さい。では、私から始めます」と語り、自己紹介を始めた。一人、二人と自己紹介が進むにつれ、バラにまつわる各自の思い出が語られ、自己紹介が終わる頃には、最初の緊張感は無くなり、グループに温かさが醸し出された。(問題77)

問題 75 H精神保健福祉士が、家族教室を開催する前に行う業務に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 効果を高めるために、対象者を発病後間もない精神障害者本人と同居している家族に限定した。
- B. K法人内で事前に家族教室に関する講師を招き研修を積み、連携機関である診療所や訪問看護ステーションに開催趣旨の説明をし、協力を依頼した。
- C. 家族教室の効果を上げるために、達成が確認できる具体性のある事柄を目標とした。
- D. 重い精神障害者の家族教室の呼びかけでは、本人の不安が増すので予備的接触としての家庭訪問を避ける。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 76 家族教室を円滑に進行するために、H精神保健福祉士とP精神保健福祉士が行った援助内容に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 座席をスクール型に配置した。
- B. 開始時間より早く来たメンバーには、隣席の人を紹介した。
- C. 不安の高いメンバーには、別室を準備した。
- D. 個別の相談を求めてきたので、終了後話し合うことを約束した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 77 H精神保健福祉士が家族教室を円滑に進行するため、開始時に行った援助内容に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. バラの花を使ったのは、メンバーの緊張や不安を取り除くことを目的としたアイスブレイキングである。
- B. 家族は、訪問看護や往診に過度の期待を抱く傾向にあるため、最初に、家族教室にも過度の期待を抱かないよう求めた。

C. 参加メンバーの中から社会資源に関する質問が出されたので、簡単に説明し、後日改めて、詳しく取り上げることにした。

D. K法人の業務内容や、家族が健康で豊かに生活できるよう支援していきたいことなどの開催趣旨を説明した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	×	○	○
2	○	×	○	×
3	×	○	×	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

(精神保健福祉援助技術・事例問題4)

次の事例を読んで、問題78から問題80までについて答えなさい。

(事 例)

統合失調症で福祉ホームB型「Uホーム」に入居していたSさん(49歳、女性)は、一時精神的な不調をきたし、元の病院に数か月再入院した後、単身でのアパート生活に踏み切った。幸い、アルバイトをしていたスーパーマーケットが再雇用してくれたこともあり、総菜部門で週3日働くことができ、順調に地域での生活に戻ることができた。Uホームで付き合い始めたPさん(56歳、男性)とは、その後も交際を続けており、お互いに生活の張りになっている様子である。PさんはUホームに3年近く入居しているが、Sさんのアパート生活が半年ほど順調に続いていたある日、新人職員のM精神保健福祉士に「ここを退所後はSさんと一緒に暮らしたい」と相談があった。M精神保健福祉士は、Pさんには糖尿病があること、金銭管理ができないこと、食事も作れないことなどを具体的に指摘し、同居はSさんに負担をかけ、結局はお互いのためにならないことを筋道立てて説明し、グループホーム入居を勧めた。(問題78)

面接を契機にPさんはよほどショックだったのか、寡黙になり、部屋から出たがらず食事もほとんど残す毎日が続き、困った施設ではケアカンファレンスを持つことになった。出席者は、施設長、主治医、M精神保健福祉士、栄養士、市の保健師、福祉事務所生活保護担当者、Sさんを担当している病院の訪問看護師である。ケアカンファレンスの議論は真二つに分かれた。訪問看護師は、Sさんは服薬もきちんとしており、仕事も週3日で余裕があり、何よりもPさんとの二人の生活を楽しみにしている様子で支援したいと主張する。施設長、施設の栄養士、市の保健師は賛成する。しかし、M精神保健福祉士と福祉事務所の担当者はSさんとの同居に反対した。(問題79)

会議では結論を見いだせなかったが、数日後、SさんがPさんを伴い主治医に談判したこともあり、結局、退所まで必要な訓練を受け、地域での支援態勢を受けることで同居生活を準備することになった。

(問題80)

問題 78 この時点でのPさんへのM精神保健福祉士の取るべき対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 穏やかな口調で諭すように、時間をかけて話す。
- B. 糖尿病の怖さは、栄養士が伝えるように工夫する。
- C. Pさんの決断を尊重するが、施設として責任は持てないと伝える。
- D. 支援を続けることと、リスクも高いことを伝える。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | × | ○ | × | × |
| 4 | × | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 79 意見が二分したが、このようなときのケアカンファレンスの運営に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 参加者は自分のかかわりを点検し、自ら変わろうとする姿勢で望むのがよい。
- B. このまま様子を見るのではなく、多数決で決めるのがよい。
- C. 意見のぶつかり合いは必要だが、相手の話を肯定的に聞くのがよい。
- D. チームワークを優先し、結論を急ぐ必要はない。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B D
- 5 C D

問題 80 主治医の対応を聞かされた後、M精神保健福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. ケアカンファレンスの結果と違うため、主治医の判断を批判する。
- B. 関係者の支援方針を一致させるために再度、ケアカンファレンスを開くよう提案する。
- C. Pさんたちとの合意なので、気持ちを切り替え退所後の支援方策を考える。
- D. Sさんに、ケアカンファレンスの真意を伝え再考を促す。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○